

平成22年度東区民文化センター舞台芸術促進事業参加企画

アートのかけはし事業 第七劇場 DeLPAプロジェクト2010
 広島公演、ワークショップ 報告書

2011年1月23日

団体名	C.T.T.広島事務局		代表者名	岩崎 きえ 印
事務局所在地	〒730-0013 広島市中区八丁堀3-1 幟会館2F 台芸術制作室 無色透明 内	舞	連絡先所在地	同 左
担当者氏名	岩崎 きえ	電話	090-7892-8925	
		Eメール	a.p.musyokutoumei@gmail.com	
事業の概要				
ワークショップ事業	第七劇場ワークショップ「からだをきれいにみせるワークショップ」(主催)			参加者 17名
実施時期	2010年7月24日(土)、25日(日)		実施場所	東区民文化センター音楽室
事業内容	講師、スタッフなど	講師/鳴海康平(第七劇場 演出家)、佐直由佳子(第七劇場 女優) スタッフ/岩崎きえ、藤井友紀(C.T.T.広島事務局)		
	主な内容	「舞台上ではもちろん、日常生活でも生かせるからだをきれいにみせるトレーニング」をコンセプトに誰でも気軽に参加ができ、かつちょっとした意識でひとのからだは変わる、ということを体験してもらうワークショップ		
実施結果	事業実施上、特に工夫した点	「演劇」に特化した物ではなく、日常興味をそそられる物にすることで、垣根を低くし一人でも多くの人にアプローチを試みた。一昔前に比べて、人々は自分の健康や状態に敏感になっていると考えている。一方で「コミュニケーション」という点では、その衰退が社会的に問題になっている。健康とは自分と自分の身体との一種のコミュニケーションによって成立をする。演劇のトレーニングにはこの二点を満たす要素が多くあり、それを楽しみながら体験してもらいたいと思った。		
	反響等(鑑賞者の反応)	自分の体と徹底的に向き合う時間を持ってもらう事で、様々な発見をしてもらえたり、シアターゲームという方法で、身体言語を体験してもらうことで一般の人に「演じる」という事を体験してもらう事ができた。		
	実施後の感想及び反省点等	多くの参加者に喜んでもらえてよかったと思う。ただ堅苦しさをなくすためにあえてアンケートを実施しなかったが、後々参加者の意見を取り入れた企画を遂行できるようになるためにも、アンケートの実施はすべきだったと考える。		
	今後の事業展開・展望	演劇のトレーニングの持つ要素が、社会生活、日常生活にとって何らかの「お手伝い」ができる可能性がある事が実感できたので、人々が構えず、かつ、楽しみながら、「表現」という部分に触れる機会を、これからも提供していきたい。		

公演事業		第七劇場 DeLPAプロジェクト2010【雨月物語】広島公演(共催)	
実施時期		2010年8月12日、13日	実施場所 東区民文化センタースタジオ2
事業内容	主な出演者、スタッフなど	原作: 上田秋成 構成・演出: 鳴海康平 出演: 佐直由佳子 / 木母千尋 / 山田裕子 / 小菅紘史 / 菊原真結 / 前島謙一(一徳会 / K・A・G) / 額田麻椰 照明: 島田雄峰 (Lighting Staff Ten-Holes) 音響: 和田匡史 制作協力: 岩崎きえ、藤井友紀(以上C.T.T.広島事務局) アフタートークゲスト: 佐々木正和、カトリヒデシ 司会協力: 中井久美(演劇ユニット体温)	
	主な内容	Deepening arts Literacy through the Performing Arts -とは、舞台作品の上演だけではなく、ワークショップや、舞台芸術家による上演作品に関するポスト・トーク、上演作品の原作や作家などの解説をするプレ・トーク、公演開催地の市民との共同製作などを実施し、舞台芸術を通してアートリテラシーを深めることを目指す多角的な舞台芸術プロジェクト。 そのコンセプトのもと企画された「雨月物語」の広島公演。	
実施結果	事業実施上、特に工夫した点	第七劇場の特徴の一つとして「作品と空間の融和」があり、今回も東区民文化センターのスタジオ2の特徴である大扉を全開にし、半分を中庭で演じる、という「半野外劇」というスタイルに挑戦してくださった。また、稽古も来館の方が行き来する中、野外で行ったことで、興味をもって話しかけてくださる方との交流も試みた。	
	反響等(鑑賞者の反応)	「とても新鮮だった」、「空間の使い方が斬新だった」、「また別の作品をこの空間で観てみたい」といった感想を多数アンケートにいただく事ができた。	
	実施後の感想及び反省点等	小さくても良質な舞台作品を広島のみなさんに提供するために小劇場規模の団体の公演機会をバックアップするために、地元で「かけはし」となって継続して行う事業として、東区民文化センターの多大なご協力のもと成功をおさめることができた。 しかし集客数はまだまだ伸び悩み、反省として、もう少し早い段階での情報宣伝、メディアへの呼びかけなど行うべきであった。	
	今後の事業展開・展望	広島ではなかなか観る機会の少ない、第七劇場のような芝居を、今後とも一人でも多くの人に観劇してもらえよう、活動を続けていきたいと思う。	

雨月物語広島公演有料動員数(計2回)					
		前売り	当日	来られなかった方	計
8月12日	一般	38	9	1	46
	学生	1	0	0	1
8月13日	一般	18	11	3	26
	学生	2	1	0	3
		59	21	4	76